

環境ビジョン2050	2030年度の目標	脱炭素社会の実現
循環型社会の実現	自然共生社会の実現	
富士電機のクリーンエネルギー・省エネ製品・環境貢献製品		

環境ビジョン2050

富士電機は、エネルギー・環境事業で持続可能な社会の実現に貢献していくことを経営方針の柱に据えています。2019年には、今後当社が長期的に取り組むべき環境活動の方向性を明確化するため、「環境ビジョン2050」および「2030年度目標」を策定しています。2022年3月、脱炭素社会の実現を目指す社会の動向を踏まえ、「環境ビジョン2050」の達成に向けた「2030年度目標」を改定しました。

環境ビジョン2050

富士電機の革新的クリーンエネルギー技術・省エネ製品の普及拡大を通じ「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現を目指します	
脱炭素社会の実現	サプライチェーン全体でカーボンニュートラルを目指します
循環型社会の実現	環境負荷ゼロを目指すグリーンサプライチェーンの構築と3Rを推進します
自然共生社会の実現	企業活動により生物多様性に貢献し生態系への影響ゼロを目指します

2030年度目標

2030年度目標

産業革命前と比較した気温上昇を1.5℃に抑えるため、以下の目標達成を目指します。

● サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量 (Scope1+2+3)	46%超削減 (2019年度比)
● 生産時の温室効果ガス排出量 (Scope1+2)	46%超削減 (2019年度比) ※
● 製品による社会のCO2削減貢献量	5,900万トン超/年

2013年度比削減率 54%

目標改定の考え方

近年、気候変動問題の深刻化を受けて、「脱炭素化」の流れが加速しています。2021年にはCOP26^{※1}で、197の国と地域が、産業革命前からの気温上昇を「1.5℃」に抑える努力を追求することで合意するなど、「1.5℃目標」は世界共通目標としての評価がされつつあります。

このような世界の潮流を踏まえ、富士電機は2022年3月、「環境ビジョン2050」に掲げる「脱炭素社会の実現」を目指し、「2030年度目標」を改定しました。

改定のポイントは以下の通りです。

「サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量 (Scope1+2+3^{※2})」の削減目標を新設しました。「生産活動における温室効果ガス排出量 (Scope1+2)」の削減目標を引き上げました。

改定後の目標値は、改定前と比較し、削減量が約12万トン増加しています。さらに、製品による社会のCO2削減貢献については、エネルギー・環境事業のより一層の拡大を見込み、目標を5,900万トン超/年に引き上げました。

「サプライチェーン」「生産時」とともに改定後の目標値は、SBT^{※3}の認定基準である「1.5℃水準」に相当します。

ESG 環境・社会・ガバナンス

富士電機のSDGs

ESGの重要課題

環境ビジョン

環境

方針・環境ビジョン2050・TCFD提言に沿った取り組み

環境保護基本方針

環境担当役員メッセージ

環境ビジョン2050

TCFD提言に沿った気候関連情報開示の取り組み

環境マネジメント

環境経営の体制

環境マネジメントの取り組み

環境経営の実績・データ

環境経営の目標と実績

事業活動と環境負荷の相関

環境会計

環境データ集2020年度

第三者検証報告書

脱炭素社会の実現

温室効果ガス排出量削減の行動計画

生産時の温室効果ガス排出量削減

製品による社会のCO2排出量削減

サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量

循環型社会の実現

事業活動における廃棄物の削減

水資源の有効利用

製品の環境負荷低減を目指した取り組み

自然共生社会の実現

化学物質管理

生物多様性の保全

社会

ガバナンス

ESGインデックス

ISO26000対照表

社外からの評価

PCB使用電気機器の判別について

富士電機レポート2021

報告書バックナンバー

環境カタログ「Blue Navigation」

資料請求

国連気候変動枠組条約締約国会議（2021年12月開催）
 Scope1：燃料の燃焼など事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
 Scope2：他社から供給された電気などの使用に伴う温室効果ガスの間接排出
 Scope3：Scope1・Scope2以外で排出するサプライチェーンでの温室効果ガスの間接排出



(出典：環境省「グリーンバリューチェーンプラットフォーム」)

※3 UNGC (国連グローバルコンパクト)、CDP (カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)、WRI (世界資源研究所)、WWF (世界自然保護基金) が共同設立した国際的気候変動イニシアチブ (SBTi)。各国の企業・団体が策定する温室効果ガス排出削減目標が、パリ協定に則した「科学的知見と整合した目標」であるかを審査し、認定する団体。

[「環境ビジョン2050」\(2019-2020年度\) PDF \[150KB\]](#)

脱炭素社会の実現

サプライチェーン全体でカーボンニュートラルを目指します

富士電機は、「2030年度目標」の達成を通して取り組むことで、脱炭素社会の実現に貢献します。

【主な施策】

- ・ サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量 (Scope1+2+3) 削減
省エネ製品のエネルギー利用効率を改善します
- ・ 生産時の温室効果ガス排出量 (Scope1+2) 削減
設備の省エネ化を進めます
再生可能エネルギーの比率を高めます
自社事業所に太陽光発電を導入します
再生可能エネルギーを購入します
- ・ 製品による社会のCO2削減貢献量
クリーンエネルギー・省エネ製品の普及を進めます

2020年度の取り組み・実績

生産時の温室効果ガス排出量削減 製品による社会のCO2排出量削減

循環型社会の実現

環境負荷ゼロを目指す
 グリーンサプライチェーンの構築と3R※を推進します

富士電機は、お取引先様を含むサプライチェーン全体で3Rに取り組むことで、循環型社会の実現に貢献します。

- 生産時の環境負荷の最小化を目指します
廃棄物の最終処分（埋め立て）率の1%未満を目指します
水投入量の売上高原単位を削減します
- グリーン調達拡大の上、お取引先様と協力体制を構築し、サプライチェーン全体で3Rを推進します
「CSR調達ガイドライン」（2020年策定）をお取引先様と共有し、環境負荷を最小限に抑える活動を実施します。
- お取引先様と協力し、3Rの仕組みを構築します
- 3Rを強化する環境配慮型製品の開発・設計を強化します

※リデュース・リユース・リサイクル

2020年度の取り組み・実績

廃棄物の削減 水資源の有効活用

自然共生社会の実現

企業活動により生物多様性に貢献し
生態系への影響ゼロを目指します

富士電機は、環境貢献製品の普及拡大などの事業および地域貢献活動で、自然共生社会の実現に貢献します。

事業活動と製品で環境負荷を低減します
生産時の環境悪化に関わる化学物質を削減します
グリーン調達ガイドラインを徹底し、使用を制限している物質が製品に混入することを防止します
地域貢献活動を通じて自然保護活動を推進します

2020年度の取り組み・実績

化学物質管理 生物多様性の保全

富士電機のエネルギー・環境ソリューション

